



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2897 URL <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 取締役・CFO (氏名) 横山 之雄

TEL 03-3205-5111

四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	311,723	9.1	21,746	13.6	28,201	20.2	18,624	30.4
25年3月期第3四半期	285,768	0.2	19,150	△8.0	23,465	0.8	14,278	△12.4

(注)包括利益 26年3月期第3四半期 34,180百万円 (117.3%) 25年3月期第3四半期 15,729百万円 (44.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	168.98	168.31
25年3月期第3四半期	129.59	129.18

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	482,580	339,301	68.3
25年3月期	446,132	315,026	68.7

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 329,610百万円 25年3月期 306,581百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	40.00	—	35.00	75.00
26年3月期	—	40.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	35.00	75.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	410,000	7.1	25,500	6.5	30,000	△3.1	19,200	1.8	174.20

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) Nissin Foods Vietnam Co.,Ltd. 、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、【添付資料】P. 4(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 有
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、【添付資料】P. 4(会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示)をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	117,463,685 株	25年3月期	117,463,685 株
26年3月期3Q	7,244,295 株	25年3月期	7,271,935 株
26年3月期3Q	110,214,527 株	25年3月期3Q	110,188,478 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3(連結業績予想などの将来予測情報に関する説明)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結結果計期間の我が国経済は、安倍政権の経済政策がもたらしたプラス効果が実態経済に徐々に波及し、輸出と個人消費の後押しをうけ回復傾向が持続しております。一方で円安による輸入価格の上昇や海外景気の不安感など、依然として経済環境の先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、消費者の食に対する安全・安心志向が続き、また、生活防衛意識や節約志向には根強いものがある一方で円安による原材料価格の上昇の影響もあり、これらへの対応等が求められております。

このような状況の中、当社グループは「“EARTH FOOD CREATOR”～人々を『食』の楽しみや喜びで満たすことで社会や地球に貢献する～」という企業理念の下、グループの強みである技術イノベーション力とマーケティング力を活かした商品開発を行い、一層のブランド価値向上に努めてまいりました。また、2014年3月期からの3カ年を対象とする「中期経営計画2015」を掲げ、成長性の高い新興国を中心にグローバル戦略を推進するとともに、グループ横断的なコスト削減にも注力し、多様な経営環境に即応できる強固な企業基盤の構築に取り組んでおります。

この結果、当第3四半期連結結果計期間の売上高は、前年同期比9.1%増の3,117億23百万円となりました。利益面においては、営業利益は、前年同期比13.6%増の217億46百万円、経常利益は、前年同期比20.2%増の282億1百万円となりました。また、当四半期純利益は、前年同期比30.4%増の186億24百万円となりました。

<連結業績>

(単位：百万円)

区分	平成25年3月期	平成26年3月期	対前年同期比	
	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	金額	%
売上高	285,768	311,723	+25,954	+9.1
営業利益	19,150	21,746	+2,596	+13.6
経常利益	23,465	28,201	+4,735	+20.2
四半期純利益	14,278	18,624	+4,345	+30.4

報告セグメント別の業績の概況は、以下の通りであります。

①日清食品

日清食品㈱の販売状況について、袋めん類では、「日清ラ王」群が引き続き売上増に大きく貢献しました。10月に発売した「日清ラ王 豚骨」も小麦の香り豊かで、のどごしの良い極細ストレート麺に王道の豚骨スープが好評を博しております。また、「日清ラ王」の技術を駆使し、11月に発売した「日清のどん兵衛 生うどん食感、生そば食感」は生うどん・生そばのような風味と食感が好評を博し、順調に売上を伸ばしております。

カップめん類では、「カップヌードル」が引き続き堅調な売行きで利益に貢献しました。また、鴨の脂の旨みが効いたつゆにすずり心地の良い真っすぐでシャキッとしたのどごしの“ニッポンのそば”を実現した「日清のどん兵衛 鴨だしそば」が売上を伸ばし、全体として好調に推移しました。

この結果、報告セグメントにおける日清食品の売上高は前年同期比5.3%増の1,574億51百万円、セグメント利益は前年同期比8.3%増の199億34百万円となりました。

②明星食品

明星食品㈱の販売状況は、袋めん類では、生めんの食感を訴求する「明星 究麺」が売上に寄与したものの前年実績をやや下回りました。しかしながら、カップめん類において「明星一平ちゃん 夜店の焼そば」シリーズ等の主力ブランドが引き続き堅調に推移したことから、即席めん全体として増収・増益となりました。

この結果、報告セグメントにおける明星食品の売上高は前年同期比1.0%増の295億22百万円、セグメント利益は前年同期比9.2%増の13億17百万円となりました。

③低温事業

日清食品チルド㈱の販売状況は、当四半期会計期間では主力ブランドを中心として販売好調だったため売上は前年実績を上回りましたが、チルドめん市場の需要停滞が影響し累計では売上減となりました。なかでも、チルド麺ならではのおいしさを追求した主力ブランドである「つけ麺の達人」や「行列のできる店のラーメン」、加えて、提案型商品の「日清のチャンポン」や「日清の太麺焼そば」等が伸長しました。

日清食品冷凍㈱の販売状況は、「冷凍 日清スパ王プレミアム」シリーズが引き続き好調に推移しました。なかでも、食べごたえ十分の「冷凍 日清スパ王プレミアムBIG」シリーズが消費者に受け入れられ、売上を伸ばしました。ラーメンやうどん類は前年並みの売上となったものの、スパゲティ類をはじめ、焼そば類、お弁当用商品類、たこ焼やお好み焼などのスナック類が伸長しました。また、米飯類「冷凍 日清カプセルスタイルおにぎり」2アイテムの寄与もあり全体として売上増となりました。

この結果、報告セグメントにおける低温事業の売上高は前年同期比4.0%増の414億98百万円、セグメント利益は前年同期比6.4%減の6億69百万円となりました。

④米州地域

米州地域は、価格競争の影響を受けにくい企業体質への改善を目指し、高付加価値商品の強化に取り組みました。スプーンでスープとめんを一緒に食べられる「BIG CUP NOODLES」が現地でも好評を博し、販売拡大に貢献しました。また、ロングセラー商品の「Top Ramen」及び「CUP NOODLES」も引き続き堅調な売上となりました。

この結果、報告セグメントにおける米州地域の業績は円安効果もあり、売上高は前年同期比23.8%増の233億83百万円、セグメント利益は28.1%増の3億34百万円となりました。

⑤中国地域

中国地域は、中間所得者層の増加が続く中国大陸市場での営業販売網・営業人員拡大とブランド戦略が奏功し、増収増益となりました。特にカップヌードルは、「合味道」ブランドの積極的な販売戦略を推進したことにより売上を大きく伸ばしております。

この結果、報告セグメントにおける中国地域の業績は円安効果もあり、売上高は前年同期比41.0%増の220億56百万円、セグメント利益は前年同期比26.9%増の22億24百万円となりました。

また、報告セグメントに含まれない事業セグメントについて、国内の菓子事業、飲料事業、外食事業及び欧州地域、アジア地域を含んだ「その他」の売上高は前年同期比16.2%増の378億11百万円となり、セグメント損益は対前年同期比1億56百万円減少の19百万円の損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の当社グループの総資産は、前連結会計年度末に比べ364億48百万円増加し、4,825億80百万円となりました。当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次の通りであります。

資産につきましては、主に現金及び預金が137億94百万円増加したこと及び受取手形及び売掛金が106億12百万円増加したこと、有形固定資産が94億79百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ121億73百万円増加し、1,432億79百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が72億51百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ242億74百万円増加し、3,393億1百万円となりました。これは主に利益剰余金が77億9百万円増加したこと及びその他有価証券評価差額金が77億28百万円増加したこと、為替換算調整勘定が73億77百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は68.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期の連結業績は、概ね予想通りに推移しており、平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年4月30日に発表しました通期の業績予想から変更は行っておりません。

なお、今後、業績に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、Nissin Foods Vietnam Co., Ltd. は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号。以下、「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号）が平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこれらの会計基準等を適用し、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しております。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上したことに伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首のその他の包括利益累計額が255百万円増加し、利益剰余金が2,094百万円減少しております。なお、これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	64,351	78,146
受取手形及び売掛金	47,072	57,685
有価証券	6,065	9,913
商品及び製品	10,022	11,058
原材料及び貯蔵品	9,329	10,294
その他	10,114	10,136
貸倒引当金	△280	△316
流動資産合計	146,674	176,918
固定資産		
有形固定資産		
土地	52,429	52,466
その他(純額)	81,358	90,800
有形固定資産合計	133,787	143,267
無形固定資産		
のれん	2,619	1,993
その他	2,057	4,387
無形固定資産合計	4,677	6,380
投資その他の資産		
投資有価証券	138,571	133,766
その他	22,762	22,577
貸倒引当金	△340	△329
投資その他の資産合計	160,992	156,013
固定資産合計	299,457	305,662
資産合計	446,132	482,580
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,652	50,904
短期借入金	1,342	2,317
未払金	24,012	23,522
未払法人税等	7,143	5,980
その他	21,658	22,282
流動負債合計	97,809	105,006
固定負債		
長期借入金	7,612	7,963
退職給付引当金	7,496	—
退職給付に係る負債	—	8,148
その他	18,186	22,160
固定負債合計	33,296	38,272
負債合計	131,105	143,279

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	48,416	48,416
利益剰余金	257,067	264,777
自己株式	△21,798	△21,716
株主資本合計	308,808	316,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,329	20,057
繰延ヘッジ損益	—	67
土地再評価差額金	△6,619	△6,619
為替換算調整勘定	△7,936	△559
退職給付に係る調整累計額	—	63
その他の包括利益累計額合計	△2,227	13,010
新株予約権	899	1,186
少数株主持分	7,546	8,504
純資産合計	315,026	339,301
負債純資産合計	446,132	482,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	285,768	311,723
売上原価	158,281	172,046
売上総利益	127,486	139,676
販売費及び一般管理費	108,336	117,930
営業利益	19,150	21,746
営業外収益		
受取利息	572	821
受取配当金	1,683	1,725
有価証券売却益	59	493
持分法による投資利益	1,312	1,596
為替差益	69	1,613
その他	909	512
営業外収益合計	4,606	6,762
営業外費用		
支払利息	170	193
その他	120	113
営業外費用合計	291	307
経常利益	23,465	28,201
特別利益		
固定資産売却益	346	136
投資有価証券売却益	359	484
受取保険金	152	23
その他	2	0
特別利益合計	860	645
特別損失		
固定資産廃棄損	199	471
災害による損失	126	45
その他	960	292
特別損失合計	1,285	809
税金等調整前四半期純利益	23,040	28,036
法人税等	8,592	9,194
少数株主損益調整前四半期純利益	14,447	18,842
少数株主利益	168	218
四半期純利益	14,278	18,624

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	14,447	18,842
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	837	7,731
繰延ヘッジ損益	—	67
為替換算調整勘定	153	5,345
退職給付に係る調整額	—	63
持分法適用会社に対する持分相当額	291	2,128
その他の包括利益合計	1,282	15,337
四半期包括利益	15,729	34,180
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,580	33,644
少数株主に係る四半期包括利益	149	535

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	149,572	29,217	39,899	18,888	15,642	253,220	32,547	285,768	—	285,768
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	134	913	417	—	66	1,531	12,049	13,581	△13,581	—
計	149,706	30,131	40,317	18,888	15,708	254,752	44,596	299,349	△13,581	285,768
セグメント利益	18,413	1,206	715	261	1,753	22,348	137	22,486	△3,335	19,150

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業、外食事業等及び欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3,335百万円には、退職給付関係費用△546百万円、のれんの償却額△562百万円、セグメント間取引消去等57百万円、グループ関連費用△2,284百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	157,451	29,522	41,498	23,383	22,056	273,911	37,811	311,723	—	311,723
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,388	1,251	930	—	94	4,665	13,033	17,698	△17,698	—
計	159,839	30,773	42,428	23,383	22,151	278,576	50,844	329,421	△17,698	311,723
セグメント利益 又は損失(△)	19,934	1,317	669	334	2,224	24,480	△19	24,460	△2,714	21,746

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業、外食事業等及び欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,714百万円には、退職給付関係費用301百万円、のれんの償却額△630百万円、セグメント間取引消去等110百万円、グループ関連費用△2,496百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。